

大 使 館 情 報

2019 年 4 月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢等（3月発表の経済指標）
- (2) 経済政策等
- (3) 中銀の金融政策等
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢（3月の出来事）

[内政]

- (1) 年金制度改革関連等
- (2) 汚職関連

[外交]

- (1) ボルソナーロ大統領の米国訪問
- (2) ボルソナーロ大統領のチリ訪問
- (3) ベニテス・パラグアイ大統領の訪伯
- (4) ボルソナーロ大統領のイスラエル訪問
- (5) 日米加豪に対するブラジル査証免除措置

3. トピックス

- (1) 山田大使とネルソン・トラッジ・フィーリョ上院外交・国防委員長との意見交換
- (2) 山田大使によるポンテス科学技術革新通信大臣を表敬訪問
- (3) マナウス・サンパウロ日系友好会（在マナウス総領事館）

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 文化イベント
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢等 (3月発表の経済指標)

(ア) 中銀が週次で発表しているエコノミスト等への調査に関して、3月29日時点で、GDP成長率予測については、2019年は1.98%で2.0%を下回り、2020年は2.75%で先週2.78%から0.03%減少。インフレ率については、2019年は3.89%で先週と変わらず、2020年も4.00%で先週と変わらず。

(イ) 1月の鉱工業生産指数は、前月比▲0.8%、前年同月比▲2.6%と大幅に失速。

(ウ) 1月の小売売上高は、前年同月比+1.9%で先月の+0.6%から増加したほか、前月比+0.4%と増加に転じた。

(エ) 全国の失業率(12~2月の移動平均)は12.4%となり、前回の公表値(11~1月の移動平均)より悪化した。

(オ) 2月の貿易収支は、輸出額は161.01億ドル(前年同月比▲7.52%、前月比▲13.50%)、輸入額は126.20億ドル(前年同月比▲12.43%、前月比▲22.99%)で、差引き34.81億ドル(前年同月比+16.08%、前月比+56.40%)となり、48か月連続で貿易黒字を記録した。

(カ) 2月の拡大消費者物価指数(IPCA)は単月で+0.43%となり、前月の+0.32%から上昇した。12ヶ月の累計では3.89%となり、政府のインフレ目標(4.5%±1.5%)内の水準で推移している。

(2) 経済政策等

(ア) 3月13日、下院に憲法司法委員会が設置され、議会での年金制度改革に係る審議が始まる。同委員会での評決は4月17日の予定。

(イ) OECDは2019年のブラジルの経済成長率を1.9%とした。昨年11月に発表した2.1%からの下方修正となる。2020年の経済成長率予想は2.4%で維持している。

(ウ) Ibopeが実施した世論調査の結果によると、ボルソナーロ政府を「最良又は良い」とした回答した割合は34%となり、1月の49%より15ポイント下落。同政府を「最悪又は悪い」との回答は24%で1月の11%より13ポイント上昇。第1期就任後3カ月目の支持率としては、カルドーゾ氏(41%)、ルラ氏(51%)、ジウマ氏(56%)と比較しても低水準であり、政権立て直しは急務となっている。

(3) 中銀の金融政策等

カンポス・ネット新総裁着任後、初となる金融政策委員会が3月19日及び20日に開催され、政策金利を年6.50%に据え置くことを決定。据え置きは8会合連続。次回は5月7日及び8日開催予定。

(4) 為替市場

(ア) 3月の為替レートは、年金制度改革に関する政治リスクが意識され、月末にかけてリアル安に推移。

(イ) 月の前半は、カーニバル休暇が終わり、下院憲法司法委員会(C C J)での審議開始を含む年金改革関連報道や、米中首脳会談の開催延期等により、1ドル=3.77~3.81レアルのレンジで推移。

(ウ) 月の後半は、20日に軍人年金改革案が提示されるも、目立った値動きはなく、翌日21日のテメル元大統領逮捕や、マイア下院議長の消極的発言等、年金制度改革に関するネガティブな要

素により、リアル売りが進んだ。

(5) 株式市場

(ア) 3月のブラジルの株式相場（Ibovespa指数）は、中旬にかけて大台の100,000ポイントに到達するも、その後は年金制度改革に関する不安感から月末にかけて値を下げる展開。

(イ) 月の前半は、カーニバル休暇が終わり、年金制度改革の進展への期待感から株高の展開へ。100,000ポイントが目前に迫る。

(ウ) 月の後半は、18日に大台の100,000ポイントを達成するも、十分でない軍人年金改革、テメル元大統領の逮捕、年金制度改革に関する政府要人の消極的発言や不協和が報じられ、月末にかけて値を下げる展開に。

2. ブラジル政治情勢（3月の出来事）

【内政】

(1) 年金制度改革関連等

(ア) 3月13日、ロベルト・カンポス・ネット氏が中銀総裁に就任。

(イ) 3月13日、連邦行政機関における2万1,000人分の政治任用ポストを廃止する旨の大統領が公布される。

(ウ) 3月20日、軍人年金制度改革を含む軍組織再編法案が下院に提出。

(エ) 3月27日、上下両院委員会における公聴会で閣僚が演説（アラウージョ外相、コスタ・リマ鉱山・エネルギー相、モーロ法務・治安相、ゲデス経済相、マンデッタ保健相、サレス環境相、ポンテス科学技術相）。

(2) 汚職関連

(ア) 3月1日、収賄罪で服役中のルーラ元大統領が、病死した孫の葬儀に参列するため、一時的に釈放された。

(イ) 3月6日、サンパウロ連邦地裁は、ソウザ元サンパウロ州道路建設公社幹部（元 PSDB 財務担当）に対し、公金横領及び犯罪組織結社罪で禁固145年の有罪判決を言い渡した。

(ウ) 3月21日、リオデジャネイロ州のアングラ第3原発建設事業を巡る約100万レアルの収賄容疑でテメル前大統領が逮捕された。また、本件に関与したとして、モレイラ・フランコ前鉱業エネルギー相及びジョアン・バチスタ・リマ・フィーリョ元リオ州警察官も逮捕。同月25日、本件で逮捕された全8名につき、逮捕の根拠不十分として弁護団が提出した人身保護令をリオ連邦地裁が受理し釈放。なお、28日、テメル前大統領は、本件に加え、別件の約50万レアルの収賄容疑で起訴されている。

【外交】

(1) ボルソナーロ大統領の米国訪問

(ア) 3月17-19日、ボルソナーロ大統領が就任後初の外遊として米国への公式訪問を行った。

(イ) 18日、伯米両国間において、①アルカンタラ・ロケット発射基地の利用に関する技術保障措置協定、②ブラジル宇宙庁（AEB）と米航空宇宙局（NASA）との間での共同開発に関する合意文

書、③ブラジル環境省と米国際開発庁（USAID）との間のアマゾン多様性保全等に関する協力文書が署名された。

（ウ）19日、ボルソナーロ大統領とトランプ米大統領の間で伯米首脳会談が行われた。ボルソナーロ大統領は、会談後の記者会見で、自身が米国の友人であることを改めて強調し、今後の伯米関係の新たな幕開けを印象付けつつ、トランプ大統領によるOECD加盟申請への支援に謝意を表明。また、エネルギー・フォーラムの新規立ち上げに合意したこと、伯から一方的な査証免除を決定したこと、防衛分野や先端技術分野での協力拡大に合意したこと、テロや組織犯罪対策、特に資金洗浄と麻薬対策で連携を強化していくこと等を確認した旨発言。

（2）ボルソナーロ大統領のチリ訪問

（ア）3月21-23日、ボルソナーロ大統領がチリへの公式訪問を行った。22日、サンティアゴのモネダ宮で「南米の進歩と開発のためのフォーラム（PROSUR）」第1回首脳会合が開催され、上記2か国に加え、アルゼンチン、コロンビア、エクアドル、パラグアイ、ペルーの大統領及びガイアナの代表が出席した。会合後には、地域対話の場を創造する提案を再確認するための共同宣言（サンティアゴ宣言）が発表され、署名が行われた。

（イ）23日、ボルソナーロ大統領とピネラ・チリ大統領との間で首脳会談が行われ、両大統領は両国の良好な関係を強調し、今後数年にわたる対話、経済統合及び持続的発展を促進するためのロードマップに署名した。

（3）ベニテス・パラグアイ大統領の訪伯

（ア）3月13日、ボルソナーロ大統領は、ブラジルでアブド・ベニテス・パラグアイ大統領の公式訪問を受け、首脳会談を行った。

（イ）両大統領は、メルコスールにおける市場アクセス及び競争力強化、二国間貿易投資促進のためのメカニズムの再活性化、国際組織犯罪対策、イタイプ水力発電所の共同管理、両国間に架かる橋梁建設等につき協力関係を強化する旨の共同声明を発出した。また、ベネズエラ情勢については、民主主義の再生へ向け、同国国民及びグアイド暫定大統領への支持を表明した。

（ウ）ベニテス大統領は、ボルソナーロ大統領をパラグアイへの公式訪問に招待した。

（4）ボルソナーロ大統領のイスラエル訪問

（ア）3月31日、ボルソナーロ大統領がイスラエルを公式訪問。

（イ）31日、ボルソナーロ大統領はテルアビブ空港でネタニヤフ・イスラエル首相の出迎えを受け、本年1月に発生したブルマジーニョ鉦滓ダム決壊事故後のイスラエルによる捜索救済活動に対して謝意を表明した。

（ウ）同日、両国は、エネルギー、防衛、航空サービス、医療、科学技術の分野にかかる協力協定を締結。また、ボルソナーロ大統領は、ネタニヤフ首相と会談を行った後、合同記者会見において、貿易投資、科学技術及びイノベーションの促進をねらいとした通商事務所をエルサレムに開設する旨公表した。

(5) 日米加豪に対するブラジル査証免除措置

ブラジル政府は、3月18日付官報号外にて、本年6月17日以降、日本、米国、カナダ及びオーストラリア国籍者に対しブラジル短期滞在査証を免除とする大統領令を公布。本件にかかる詳細は以下のとおり。

(ア) 査証免除の対象：上記4か国の有効旅券を所有する、観光、商用、通過、芸術・スポーツ活動を目的とする者、または、国益に関わる例外的な状況にある者で、居住を意図しない場合。

(イ) 90日までの滞在を期限とし、最初の入国の日から数えて12か月の間に180日を超えない範囲で90日の延長可能。

(ウ) 2019年6月17日より施行。

3. トピックス

(1) 山田大使とネルソン・トラッジ・フィーリョ上院外交・国防委員長との意見交換

3月26日、山田大使は、ネルソン・トラッジ・フィーリョ上院外交・国防委員長を往訪しました。山田大使から要職への就任に祝意を述べつつ、日伯関係の更なる強化に向けて委員長の協力を求めました。トラッジ委員長からは、カンボグランデ市長を長く務めてきた関係で、同市の日系社会とは懇意にしており、自身が親日派であることを述べつつ、両国関係のために尽力したい旨の発言がありました。



山田大使とネルソン・トラッジ・フィーリョ上院外交・国防委員長

(2) 山田大使によるポンテス科学技術革新通信大臣を表敬訪問

3月26日、山田大使は、マルコス・ポンテス科学技術革新通信大臣を表敬訪問しました。海洋科学、宇宙、生物多様性、防災、デジタルテレビ等、日本とブラジルの科学技術分野での協力関係について意見交換するとともに、今後、更に協力関係を強化していくことで一致しました。



山田大使とポンテス科学技術革新通信大臣

(3) マナウス・サンパウロ日系友好会 (在マナウス総領事館)

3月22日(金)～24日(日)、レナト・イシカワ/サンタクルス病院理事長を筆頭にマルセロ・ヒデシマ氏、マルシア・ナカノ氏等を中心とするサンパウロ若手日系人11名がマナウスを訪問し、ノブオ・ミキ氏が代表を務めるマナウス次世代日系人と「サンパウロ・マナウス日系友好会」が開催された。サンパウロおよびマナウスの両日系社会の若手の代表達が活発に交流を行うとともに、日系社会のアイデンティティと今後の日系社会のあり方を議論し、様々な意見交換を実施しました。こうした地域間を越えた日系社会の連携と相互啓発による活動が、今後サンパウロ・マナウス間に限らず他地域間でも拡大・拡充していくことを期待しています。

【日系友好会概要】

サンパウロ若手日系人グループは22日(金)にヤマハ・マナウス工場を見学した後、在マナウス総領事館にて関口総領事と意見交換を行い、夜は公邸にてマナウスの若手日系人らと共に夕食懇談会に出席しました。



マナウス日本国総領事館にて



総領事公邸における懇談会

また23日(土)は、サンパウロの日本人移住の歴史をレナト・イシカワ氏が、西部アマゾン地域の日本人移住史をケン・ニシキド氏が自身の体験を交えて説明しました。その後、サンパウロ若手日系人が所属する各団体の紹介(ブラジル日本文化福祉協会、JCI、等)を行った他、日本人アマゾン移住90周年に関する説明がなされました。午後は日系人のアイデンティティ、役割や、これからの日系社会のあり方を掘り起こすワークショップ等が行われました。



西部アマゾン日伯協会での交流 1



西部アマゾン日伯協会での交流 2



日系人のアイデンティティ
に関するワークショップ



参加者記念撮影

24日（日）は、マナウス・カントリークラブを訪問し野球の指導等活動の説明を受け、交友を深めました。



マナウス・カントリークラブ 1



マナウス・カントリークラブ 2

4. 大使館からのお知らせ

(1) 文化イベント

(ア)「少女マンガパワー！」巡回展示会（リオデジャネイロ市）

日時：3月14日（木）～ 4月11日（木）

場所：リオデジャネイロ州立大学文化センター - Rua São Francisco Xavier, 524, Maracanã, Rio de Janeiro - RJ

内容：日本の漫画の多様性とその価値を紹介する展示会。第二次大戦後から現代にいたるまで、少女漫画の発展に貢献のあった漫画家12人の作品を展示する。

URL : <http://www.coart.uerj.br>

(イ) 第4回日本研究コロキウム (サンパウロ)

日時 : 4月3日 (水) 19:30~21:00

場所 : 国際交流基金サンパウロ日本文化センター図書館 - Avenida Paulista, 52 - 3º andar, São Paulo - SP

内容 : 国際交流基金サンパウロ日本文化センターとサンパウロ大学日本文化研究所との共催で、日本研究事業の一環として、若手日本研究従事者による発表会を開催。

URL : https://fjisp.org.br/agenda/4_coloquio_fjisp/

(2) 外務省 海外安全ホームページ

各国の危険情報や安全対策など、海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点が掲載されている。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(3) ブラジル渡航情報

(ア) 危険情報

2019年2月12日付で内容を改訂したので御確認いただきたい。以下の地域が「レベル1 : 十分注意してください。」となっているので、詳細をホームページで確認いただきたい。

- ・ブラジリア連邦区 (継続)
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市 (継続)
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏 (継続)
- ・アマゾナス州大マナウス圏 (継続)
- ・パラ州大ベレン圏 (継続)
- ・ペルナンブコ州大レシフェ圏 (継続)
- ・バイア州大サルバドール圏 (継続)
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏 (継続)
- ・パラナ州大クリチバ圏 (継続)
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市 (継続)

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_259.html

(イ) 安全対策基礎データ

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査や大使館、総領事館の緊急連絡先が掲載されている。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html

(ウ) テロ・誘拐情勢

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html